

米CPI、インフレ長期化懸念が強まる

ポイント① 5月のCPI、市場予想を上回る

米労働省が6月10日に発表した5月の米CPI（消費者物価指数）は、市場予想を上回り、前月比1.0%、前年同月比で8.6%の上昇となりました。また、変動が大きいエネルギーと食品を除くコアCPIについても、前月比0.6%、前年同月比で6.0%の上昇と、市場予想を上回りました。CPI・コアCPIともにインフレの根強さを示す結果となりました。

ポイント② 強い個人消費がインフレ要因

主な項目別にみると、5月のCPIでは広範囲に上昇していることがわかります。右下図にあるように、各項目において物価を押し上げました。4月に下落したエネルギー価格は、5月に前月比3.9%上昇しました。また、サービス価格においては、4月から伸びが鈍化したものの、「リベンジ消費」などを背景とした米国内の需要の強さによる物価押し上げが確認されました。コスト・プッシュ型のインフレだけでなく、ダイヤモンド・プル型インフレ（需要インフレ）の様相を呈しており、インフレ長期化の見方が強まりました。

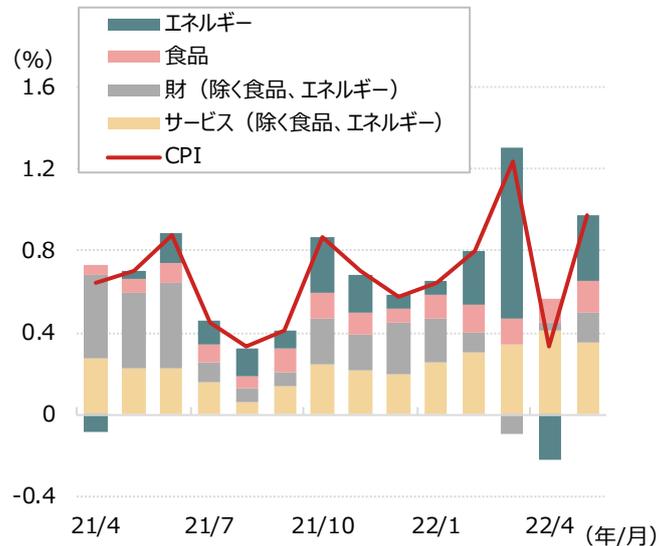
ポイント③ CPI発表後、米国市場は大荒れ

10日の米国市場は、5月のCPI発表後、米国10年国債利回りは急伸、前日の3.04%を上回る3.16%で取引を終了しました。また、株式市場は大幅続落となり、主要株価指数は約3週間ぶりの安値をつけました。市場では、インフレのピークアウトの兆しが期待されていましたが、予想に反して加速、インフレ長期化の懸念が高まりました。FRB（米連邦準備制度理事会）の金融引き締めペースの加速が懸念される中、今回の発表を受けた、15日のFOMC（米連邦公開市場委員会）の声明に注目が集まります。

米CPIの推移



米CPIの項目別寄与度の推移（前月比）



重要イベント
 6月15日 米金融政策発表、米小売売上高（5月）
 6月17日 米鉱工業生産指数（5月）

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。